

広大から海外へ留学している若手の日記



米国フォーサイス研究所留学便り

古庄 寿子 医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 歯学分野
口腔顎顔面病理病態学 助教

私は現在、米国マサチューセッツ州ボストンのForsyth研究所に留学しております。ボストンは東海岸の北の方、ニューイングランド地方の都市で、緑の多い美しい街です。日本と同様に四季があり、季節の移り変わりを楽しむことができます（冬は本当に寒いです）。アメリカでも有数の学術都市であり、研究所の近くにもハーバード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする有名な大学が多数あります。

私の留学先であるForsyth研究所は、世界で唯一歯科領域に特化した珍しい研究所です。私は、研究所で佐々木元先生のご指導のもと、ノックアウトマウス第1臼歯菌性感染モデルを使用し、歯周病原細菌*P.gingivalis*菌性感染による非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）増悪への影響のメカニズムについて主に研究を行っています。また、研究室では根尖病巣の形成、治療課程における好中球・マクロファージの役割について研究をされており、留学期間中には自分の主研究のみならず、他のテーマの研究メンバーにも加えていただき、動物モデルの作成など実験の手技的な事のみならず、論文作成に関する事やアメリカで職を得る事の楽しさ、厳しさなど、様々なことを教えていただいています。研究所にはアメリカのみならず、多くの国からくるスタッフで構成されており、研究の合間やランチタイムでの会話は他国の文化・習慣を垣間見することもでき、非常に新鮮です。セミナー等も充実しており、研究に没頭できる時間を海外で過ごせた事は私にとってとても意味のある事だと感じています。

アメリカでの生活ですが、日本を発つときは不安なことばかりで、1年間生活できるのか、と思っていましたが、アメリカのいわゆる「大雑把」な文化に、驚きつつも慣れ、現在では楽しんで生活しております。また、ボストンは学術都市ということもあり、他分野の研究者が集まる交流会もあり、多くの友人もできました。研究だけでなく、自分の中で物事に対する視野を広げる事のできる「濃い」経験をさせて頂いていると思います。

このたびの留学は自分の人生の中で大変貴重な時間になっています。最後になりましたが、このような機会を頂き、高田隆教授ならびに諸先生方に、心より御礼申し上げます。



チャールズ川凍結！（研究所より撮影）